

「SAFETY ドライブチェック」モニター調査結果の概要

平成 28 年 3 月

■モニター調査の概要

「SAFETYドライブチェック」は、注意機能を計測して運転年齢や運転能力を診断することで事故の予防に役立てていただくことを目的として開発しました。

モニター調査は、「SAFETY ドライブチェック」を検証するとともに、診断の精緻化、今後の普及、そして安全運転に対する関連ツールへの取り組み促進に向けた検討の基礎資料に資することを目的として実施しました。

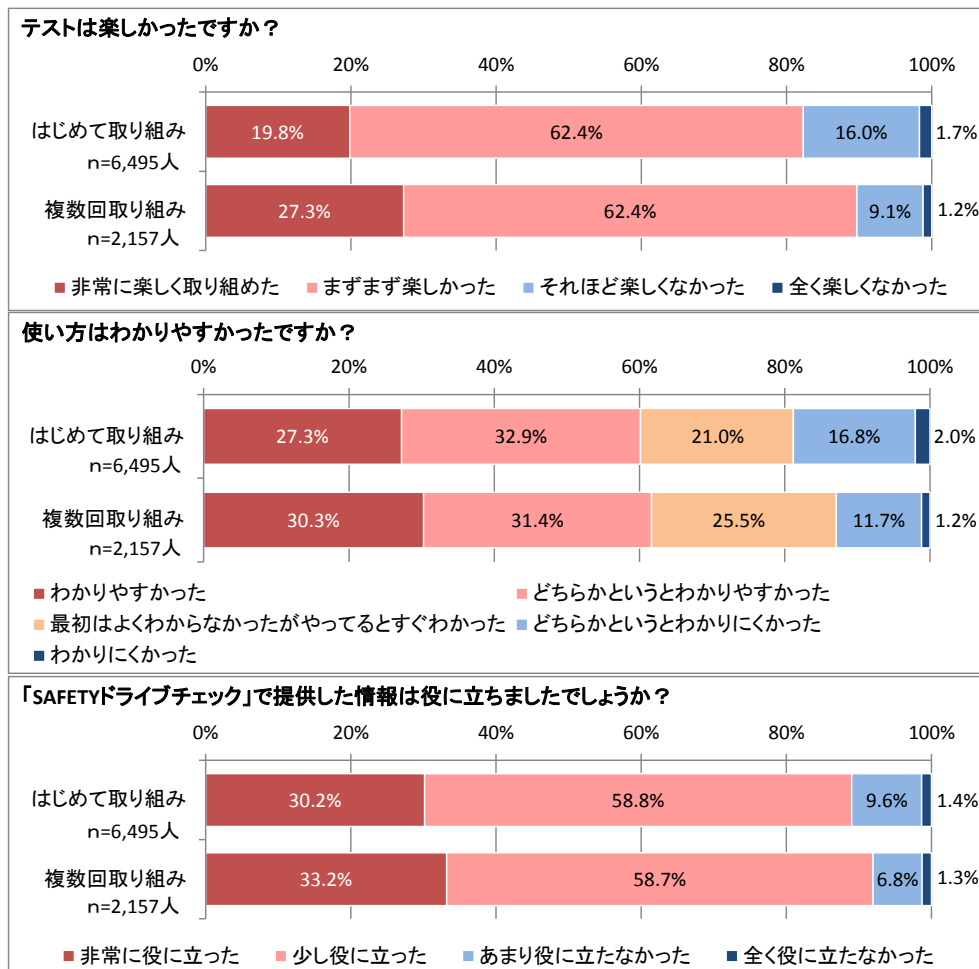
モニターには、阪神高速道路のメーリングリスト:7.5万人、商用メーリングリスト:15万人を対象としてメールで依頼するとともに、ホームページやフェイスブックなどでも広く参加を依頼しました。調査期間は、平成 27 年 6 月 5 日(金)～6 月 22 日(月)の 18 日間です。

この結果、1.3 万人の参加者に約 2 万回のテストを実行していただき、6,500 人からアンケート調査に回答していただきました(有効回答)。モニターは、女性が約 2 割、青年層も約 1 割と少なく、壮・熟年層が比較的多いという特徴があります。

■「SAFETYドライブチェック」の感想と評価

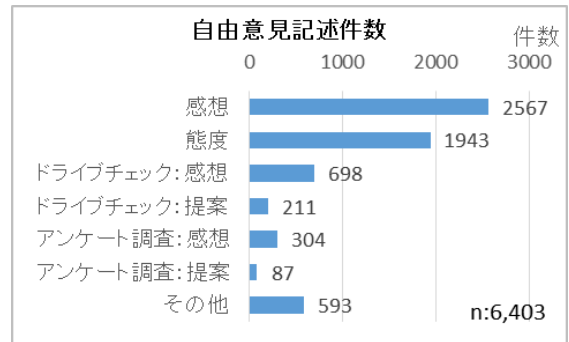
・はじめての参加者の 8 割超、複数回参加者は 9 割の方が、“楽しかった”と回答されました。また、約 6 割の方が“わかりやすかった”、「最初はよくわからなかったがやっているとすぐわかった」を加えると 8 割超の方が“わかりやすかった”と回答されました。さらに、9 割以上の方から「役に立った」と回答していただいております、概ね前向きに評価していただいたと考えられます。

・いずれも取り組み回数を重ねるに従って肯定的な回答の割合が増え、評価が高まっています。



■「SAFETYドライブチェック」に対する意見

- アンケート調査では、非常に多くのご意見をいただきました。また、自由意見でも、6千件を超えるご意見をいただき、感想や態度だけでなく、多くの具体的な提案をいただきました。
- 具体的なお意見としては、テストの解説、画面構成やデザイン、操作や挙動などについて多くご提案いただきました。また、システムに関するご要望として、「タブレット版のリリースや画面タッチ操作」や「医学的見地からのアドバイス情報提供」、「練習機能」などについて、よりわかりやすい解説を求めのご意見をいただきました。
- 今後はいただいたご意見などを考慮して、より望ましいシステムへの改良や運用方法の検討に活用していくとします。



■「SAFETYドライブチェック」テスト結果の概要

- 「SAFETYドライブチェック」テストの結果、「先急ぎ」、「遅めの反応」、「見落とし」、「判断ミス」は、加齢とともに増加する一方で、「正答反応」は加齢とともに減少し、男性の方が女性よりも年齢に敏感であることが確認されました。
- 「事故経験者」は、「先急ぎ」、「遅めの反応」、「判断ミス」は加齢とともに増加し、逆に「正答反応」は減少する傾向にありました。29歳以下男性は「判断ミス」、30～49歳男性は「見落とし」、50歳以上は「正答反応」が、女性は「先急ぎ」がテスト結果に影響していることが統計的に確認されました。これらの関係を反映して“事故を起こす確率”を推定することが可能となりました。さらに、この10年間で複数回事故を起こした人は、「早めの反応」との関係があることも確認されました。

